

平成30年度 獨協埼玉高等学校 自己評価シート

目指す学校像	多様かつハイレベルな進路目標をめざす集団作りと併せ、豊かな環境のもと、自ら考え、判断できる若者を育てる。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的学習をなおいっそう取り入れ、自ら考え判断できる若者を育てる。 2. 多様な進路目標の実現に向けて努力する。 3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 4. 学校生活の安全性と快適性を向上させるため、安心・安全な学校作りを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら考え判断できる若者を育てるために、積極的に学ぶ姿勢を促し、自ら考え・表現する活動の機会の保障を十分に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の質の向上をはかり、生徒の興味・関心を育む。 ○ 能動的・主体的に学び表現する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の改善を目指して授業アンケートを実施する。 ○ 発表の機会を積極的に取り入れる。学習者参加型の能動的学習を適切に授業に取り入れる工夫をする。 ○ 獨協コースの教育内容を学校内外に効果的に広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートを実施したか。 ○ 能動的学習について教科や題材に応じた効果的な方法を引き続き探求したか。 ○ 発表の機会を積極的に取り入れたか。 ○ 獨協コースの広報活動を積極的に行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートを2学期末に実施した。 ○ 獨協コースのニュース及び論文一覧を作成しホームページに概要を掲載し充実度を図った。また、瓦版を昇降口に掲示した。 ○ 3学期に論文発表会を校内実施した。 	B+	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の機会について、英語科・社会科においては更に充実した実践がなされた。他教科においても積極的な対応が望まれる。 ○ 引き続き、獨協コースの学びのPRを早期学年に行う必要がある。併せて大学からの講演会を実施し、併設大学の魅力にふれる機会を設ける必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ より質の高い学習と自発的かつ継続的学習を促す授業展開及び環境整備を推進する必要がある。 ○ 生徒の進学要求に応える必要がある。 ○ 情報活用能力と併せ、教員の上級学校情報の共有化を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自発的な学習を促す。かつ継続的学習につながる工夫をする。 ○ 英語4技能向上への充実度を図る。 ○ ICTを活用した教育実践に取り組む。 ○ 情報共有の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自習室の拡張、自習スペースの拡充を図る。 ○ 継続的学習につながる環境整備をする。 ○ 難関大学の入試に対応した授業や講習を積極的に行う。 ○ 英語表現をネイティブ対応の授業展開とする。 ○ 大学入試情報および併設大学の特色について情報共有の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自習室を拡張したか。自習スペースを拡大充実させたか。 ○ 継続的学習につながる環境整備に対処したか。 ○ 難関大学の入試に対応した授業や講習および発展的学習の機会の提供を行ったか。 ○ ネイティブ対応を検討したか。 ○ 大学入試情報および併設大学の特色について情報共有の場を設けたか。 ○ ICTの活用を検討したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 廊下での自習スペースの整備を実施した。 ○ 各講習において、難関上位大学と中堅大学等のグレード別対策講習を実施した。 ○ 次年度に向けてネイティブ対応の拡充をはかった。 ○ 複数の教科でICTを活用した教育実践が更に拡充した。 ○ 夏の教研集会で、獨協大学の2学科の説明会を実施した。 ○ 冬の教研集会で、駿台予備校校長による大学入試改革の講演を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ スタディサブリの活用度合いは不十分である。各教科で、このシステムを用いた積極的活用が望まれる。 ○ 英語公的資格に対し、学校をあげて生徒の資格取得・能力向上に取り組む必要がある。 ○ それぞれの教科で発展的・能動的な学習の場を提供し続ける必要がある。 ○ 各教科においてICTを活用した教育実践が行えるよう、教科内・校内研修および学外研修を奨励し、積極的に取り組めるよう引き続きに努める必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時の安全とマナーの向上が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続する。 ○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続する。 ○ バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続したか。 ○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続したか。 ○ バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続した。 ○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続した。 ○ バスや電車内マナーの苦情は減少傾向にあるが皆無ではない。 	A-	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校での安全とマナーは継続指導を行う必要がある。 ○ 電車内を中心としたマナーについて考えさせる機会を与えたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が安全に生活できるような環境作りをさらに推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大地震に備えた態勢づくりを図る。 ○ AED講習を行う。 ○ 携帯マナー教室を行う。 ○ 不審者侵入対応マニュアルを整備する。 ○ 休日の校内活動における来校者の把握に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震発生に備え、食糧備蓄を維持する。また、避難訓練を実施する。 ○ AED講習会を開催する。 ○ 携帯マナー教室を実施し、SNSなどの安全な利用法を理解させる。 ○ 不審者侵入に備えた態勢を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3日分の食料・飲料水の備蓄を維持したか。 ○ 避難訓練を実施したか。 ○ 高2にAED講習会を開催したか。 ○ 高1を対象に携帯マナー教室を実施したか。 ○ 不審者対応マニュアルを周知したか。 ○ 休日の来校者把握に努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3日分の食料・飲料水の備蓄を維持した。 ○ 5月に避難訓練を実施した。 ○ 高2にAED講習会を開催した。 ○ 高1を対象に携帯マナー教室を実施した。 ○ 不審者対応マニュアルに基づき来校者を把握している。 ○ 学校周辺の不審者へのパトロールを行った。 	A-	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も、備蓄は継続し、避難訓練・AED講習・携帯マナー教室は毎年実施する必要がある。 ○ SNSを用いたトラブルを未然に防ぐための対策と対処法の共有を一層はかる必要がある。 ○ 部活動中の事故や苦情に対し、活動中の安全対策とマナーを徹底したい。

学校関係者評価
実施日 令和元年 5月 11日
学校関係者からの意見・要望・評価等

<ul style="list-style-type: none"> ○ 獨協コースの教育的意義は非常に高いものと認識している。入学制度の1つとしてではなく、高大接続の一環として、学園が責任をもって教育活動しているという点で高く評価する。併せて、低学年も参加できる校内論文発表会が開催されたことも評価したい。
<p>一方、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入学定員厳格化によりMARCHが難化し続けている。ボリュームゾーンにしたいという事であるので、戦略的な対策が望まれる。 ○ ICTの活用頻度が上がっているようであるが、引き続き積極的な活用を続けてほしい。 ○ 学校の狙いと教科教育のすり合わせ、および情報の共有化を進めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時の交通安全・マナーについて引き続き注意喚起して欲しい。 ○ 近年、高齢者ドライバーの事故等をよく耳にする。正門付近のスクールゾーンで、スピードダウン用の突起物を設けてもらうなどの安全対策もあるので検討し依頼してはどうか。 ○ 生徒の携帯電話・スマートホン依存については、家庭での協力も不可欠である。使用する生徒の意識改革の効果が一番大きいので、マナー教室と併せ、登下校・家庭における自己ルールなどを話題に取り上げ、自発的な行動につながるような指導をお願いしたい。